

肝臓は、栄養分を体内で利用しやすくしたり、体に有害な物質を解毒する機能を持つ、文字通り人体の中で「肝心要(かんじんかなめ)」の臓器です。今回は肝臓の病気のひとつである肝炎についてご紹介します。

肝炎の種類

(1) 肝炎とは

肝炎とは肝臓の炎症により肝臓を構成する細胞(肝細胞)が壊され、肝臓の機能が働かなくなる病気です。発症・症状の経過から大きく3つに分類されます。

- ①急性肝炎：一過性。概ね発症から数週間～6ヶ月以内に完治。主な症状は、全身倦怠感・食欲不振・黄疸など。
- ②慢性肝炎：肝細胞の破壊と修復が6ヶ月以上継続。肝臓病の中で一番多い。一般的には自覚症状はほとんどない。健康診断などで発見されることが多い。
- ③劇症肝炎：初期症状は急性肝炎と同様だが、症状が短期間で悪化し、肝性脳症という意識障害が生じる。感染症や腎障害などの重い合併症を引き起こし、死に至る場合がある。

また、原因により以下のように分類されます。

分類	原因・傾向	治療
ウイルス性肝炎	肝炎ウイルスと呼ばれるウイルスの感染	下記をご参照ください
中毒性肝炎	アルコール性肝炎 アルコールを肝臓で分解する過程でできるアセトアルデヒド 継続的な大量の飲酒により肝臓の機能が衰弱した人がなりやすい	禁酒により肝機能の回復を目指す
	薬剤(毒物)性肝炎 服用した薬剤 ①抗ガン剤や解熱・鎮痛剤などの薬剤が直接作用する中毒性 ②薬剤に対し過剰な免疫反応を示すアレルギー性	使用していた薬剤の中止により、ほぼ症状は回復
自己免疫性肝炎	免疫システムの過剰反応 女性に多く見られる	ステロイド剤(免疫反応を抑える合成ホルモン剤)を用いる

肝炎が疑われる場合には、血液の検査を行い、原因やウイルスの型などを特定し、適切な治療を行いましょう。

ウイルス性肝炎について

(1) 日本人に多いウイルス性肝炎

日本人の肝炎患者の80%程度がウイルス性肝炎とされています。肝炎の原因となるウイルスには、A・B・C・D・E・Gなどの型があり、日本ではA型、B型、C型のウイルス感染が多くなっています。主なウイルスの感染経路は右表のとおりです。

A型肝炎は、発症が急激で、高熱が出ることが特徴ですが、症状は一過性です。慢性化したり、再発したりせずほぼ完治します。特効薬はなく、安静にして治します。

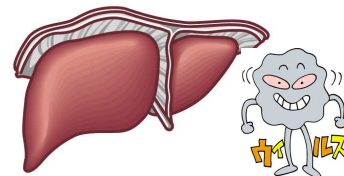
A型	ウイルスに汚染された食べ物や水の摂取
B型・C型	注射針やカミソリなどの共用、性行為、母親から子供への感染(出産時)、肝炎ウイルスが混入した血液を輸血した時

(2) B型・C型肝炎の治療

B型・C型の肝炎は、肝臓に繊維が増加(繊維化)して硬くなり、肝硬変を生じ、さらに肝臓ガンへと移行しやすいので特に注意が必要です。しかし、適切な治療を受けることにより、病気の進展を抑制し、ガンの発生を抑えることは可能です。

B型・C型肝炎と診断された場合は、①ウイルスを除去する薬剤(インターフェロンなど)の投与、②肝臓の炎症を抑える肝細胞保護薬の投与、③ウイルスに感染した肝細胞をリンパ球が攻撃することを抑える薬剤の投与などを行います。

インターフェロン療法には副作用があります。主治医から十分な説明を受け、理解した上で、インターフェロン療法を受けるかを決めるようにしましょう。



《皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当：八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL:03-3582-4511